



地質図：館林市は城下町が築かれた台地と利根川や渡良瀬川が削って出来た低地から出来ている低地では毎年の様に洪水が繰り返し起こり、農民たちは苦しい生活を余儀なくされた。台地は 30m～20mで 低地は 10m～20mになり、台地と低地の境には崖が形成されている。洪積台地は 13 万年前から 1 万年前に堆積した台地⇒関東ローム層にて 2 m 前後覆われている。沖積低地は、河川に寄り洪積台地が削られ深い谷になり、1 万年前以降その谷を河川が運んできた土砂により堆積して出来た低地（平地）⇒関東ローム層は存在しない（稲作に適した土壌）



現渡良瀬川に康政が堤防を築く前は、矢場川が本流で板倉まで流路があったが、康政の築堤により矢場川の水量が減少し、綱吉の矢場川の流路変更につながった。